

文学部学生のハイデルベルク大学・ストラスブール大学派遣
2019年度テーマ「ジェンダーと性的マイノリティーを文化越境的な視点から考察する」
(2020年2月20日～27日を予定)

大学院文学研究科では、スーパーグローバル大学創成支援事業「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」の一環として、2017年10月に“京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻（修士課程）”を新たに設置しました。文学部では、新専攻の連携先であるハイデルベルク大学とストラスブール大学への学部生派遣を実施します。

本年度のテーマは「ジェンダーと性的マイノリティーを文化越境的な視点から考察する」とし、性別～性差別、男女平等、人権や生物科学とポリティクスのダイナミクスについて現在の・歴史的に考えることをめざします（例：フェミニズム、#metoo運動、LGBTQ、男性学、文学・映画・ゲームにおける女性像・男性像、女性語・男性語など）。参加者には、ハイデルベルク大学・ストラスブール大学の学生との英語による討論に参加できる語学力と、ジェンダーに関する現象についてアジア（日本）とヨーロッパを対照しつつ考えてみようとする知的意欲を持つことを期待します。

1. 派遣人数：6名（予定）

2. 対象学生：文学部2回生～3回生（休学中の者を除く）。2020年2月20日時点で90日以上の有効期間があるパスポートを保有（取得見込を含む）し、ドイツ・フランスにビザ不要で行けること。

文学部の所属系・専修（所属予定を含む）の専任教員の推薦が必要。

3. 日程（予定）：

2月20日（木）	関空発、フランクフルトへ（乗継便） 鉄道またはバスでストラスブールへ移動
2月21日（金）～23日（日）	ストラスブール大学・ストラスブール市内 ※2月21日（金）はワークショップに参加
2月24日（月）	EU機関見学、ハイデルベルクに移動
2月25日（火）～26日（水）	ハイデルベルク大学・ハイデルベルク市内 ※2月25日（火）はワークショップに参加
2月27日（木）	フランクフルト空港発（乗継便、機中泊）
2月28日（金）	関空着

4. 引率：ビヨン＝オーレ・カム文学研究科講師（大学院国際連携文化越境専攻）

5. 参加者の義務：

- (1) 事前説明会・事前研修への出席が必須（1月第3～4週に開催予定）
- (2) 出国から帰国までの全行程に参加し、学生交流活動や研修に積極的に関与すること
- (3) 派遣報告書など派遣後の必要書類の提出
- (4) 報告ビデオの撮影・制作への参加、事後報告への出席(2020年4月文学部新入生ガイダンス時を予定)
- (5) 文学部・文学研究科で2020年度に受け入れる交換留学生・留学説明会の支援をおこなうこと

6. 必要書類・締切日・提出先：以下をまとめて文系学部校舎1階101号室（京都大学文学研究科国際交流推進室）に11月29日（金）午後5時必着で提出のこと。

- (1) 応募用紙（所定の様式。文学部の所属系・専修（所属予定を含む）の専任教員の推薦所見が必要）
- (2) 直近の成績証明書
- (3) 語学能力証明書のコピー（英語のTOEFL ITP、TOEFL iBT、IELTSのいずれかは必須とする。その他の語学の能力証明書を追加してもよい。）
- (4) 2020年2月20日時点で90日以上の有効期間がある本人パスポートのコピー
*現在パスポートを申請中の場合は、その事実を証明できる申請受理票のコピー

*採択決定した者のみ、親族の誓約書（添付様式）・海外旅行保険契約書コピーを提出

7. 費用：

〔公費負担〕往復航空券、旅行業者を通じて手配可能な長距離の鉄道・バス料金、ホテル室料

〔参加者個人負担〕食費、海外旅行保険（プログラムで指定、6,000 円程度）、居住地・関空往復の国内交通費、その他すべての費用

* 不可抗力による場合以外、個人の事情による参加取りやめや予定変更にもない発生する一切の費用は本人負担とする。

8. 審査：締切後、主として学業成績・語学能力・志望動機にもとづき、学年・性別・専門分野が偏りすぎないように配慮しながら、文学研究科国際交流委員会が審査し、12月20日（金）ごろをめどに候補者を決定して国際交流推進室から本人に通知する。必要な場合は面接をおこなう。

* 候補者決定通知後、連絡がつかない場合は、補欠者を繰り上げることがある。

9. 問い合わせ先：京都大学文学研究科国際交流推進室 (bun.kokusaikoryu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

10. その他：

* 10月16日の昼休みに派遣説明会を開催し、研修内容や研修実施までの流れを説明します。